

アート寺子屋 vol.3 食と現代アートの融合がもたらすコト

2014年12月13日 埼玉大学プロジェクト室

12月13日(土)に埼玉大学教育学部D棟プロジェクト室を会場に、今年3回目の〈アート寺子屋〉が開催されました。“小屋(住)”をテーマとして今年の活動を展開する私たちは当然“衣”や“食”を無視することはできないということで、近年各地で取り上げられているアートと“食”のコラボレーションをテーマとして今回の寺子屋を企画しました。当日は全体を3部構成とし、1部では“食”をテーマにさまざまなジャンルで活躍する3人のアーティストによる活動報告、2部は“食”をテーマとしたワークショップ、そして3部はシンポジウムという構成ですめられました。

最初に活動報告をおこなった美術家の増田拓史さんは自身がアート活動をするようになったきっかけから、現在各地でおこなっているプロジェクトについて報告しました。「食堂プロジェクト」と呼ばれるその活動は、地域の家庭料理のレシピの調査をつうじて、その土地の歴史や文化を掘り起こすところみで、冊子や動画を駆使して報告される活動のようすからは、増田さんの真摯な眼差しが伺えます。2番目に報告した写真家の木村文吾さんは、“食”とその背景にある生産者の存在や日本文化、さらにはそこに通底する気候や風土さえも写し撮ろうとする写真家としての野望について話しました。木村さんの報告では映像によるプレゼンテーションの他に実物の作品を持参していただいたので、実際に写真を手に取りながらお話をうかがうことができました。最後に報告したパフォーマーの野本翔平さんは、パフォーマンスアートをするようになったきっかけと、今もつづけている地元のパン屋「翠玉堂」での取り組み、そして政治活動など、融通無碍に変化する自身の人生について、ほのぼのとした語り口でじっくりと語っていました。

ひきつづき第2部は、増田さんの指導による「記憶の海苔巻ワークショップ」です。内容は参加者が思い出のオカズをもちよって、オカズにまつわるエピソードを語ったのち、すべてを海苔巻の具材にして食べてしまおうというものでした。協力して海苔巻作りをする参加者の気持ちは、しだいにうちけていきました。海苔巻は最終的に色とりどりに美しくあがり、協力して作り上げた達成感もてつだって全員がおいしくいただきました。

第3部のシンポジウムでは、3人のパネラーが“食”をテーマにアート活動をおこなううちに起こった自身の変化や、これからやってみみたいことなどについて語り合いました。初対面のメンバーにも関わらず意外と話ははずみ、これからの社会の在り方や、そこに関わるアートの可能性にも話がおよぶなど、みじかい時間でしたが充実したやりとりが展開しました。シンポジウムをつうじて実感したことは、メディアとしての“食”のポテンシャルの高さです。アートがつねに人の創造性を喚起する存在であるとすれば、“食”はますますアートのメディアとして活躍の場をひろげていくこととなるでしょう。(参加:32人)

石上城行(SFM運営委員)



増田拓史さん



木村文吾さん



野本翔平さん



アートのまつり

2015年1月12日 宮代町「進修館」

SMFで定番となってきたプログラムに「ラウンド・テーブル」があります。アーティスト、アート関係者、あるいはアート愛好者などが、立場を超えて円卓で語り合うというものです。今年は、これから本格的にスタートする「SMFアート長屋」の入居者の顔合わせ会も兼ねているため、お祭り色を加えて、「アートのまつり」としておこないました。一人一品持ち寄りパーティーのような、少し長めの自己紹介というようなかたちです。場所も、いつもの美術館を離れ、県内でも魅力的で新しいまち宮代町の「進修館」を選びました。1980年に、気鋭の設計組織「象設計集団」の設計によって建てられた、造形的にきわめてユニークなコミュニティセンターです。

町議会でも使われる小ホールに、参加者の方がたの作品などが三々五々セットされ、開演。中村元さんの獅子舞の熱演に続いて、SMF代表の三浦清史さんにご挨拶をいただきました。その後、地元の建築家手島互さんから、宮代町と竹のアート実行委員会について紹介がありました。手島さんには、今回の企画段階から打合せに加わっていただき、多大な協力をいただきました。それから、三部構成で、飛び入りを含めて計18組のプレゼンテーションが繰り広げられ、予定の3時間はあっという間。30分ほど延長されて、充実したまつりの時間が終わりました。

その後、場所を研修室に移して懇親会が開かれ、乾杯の音頭を本田貴侶さんにとっていただきました。そして、宮代そば打ち隊の皆さんによってふるまわれたおそばと天ぷらははじめ、宮代の食材を味わいながら、これからのに向けての議論が展開されました。(参加:46人)

青山恭之(SMF運営委員)



あなたとどこでもアート
小さな家プロジェクト

文化庁 平成26年度 地域と共創した美術館・歴史博物館活動支援事業

2015年1月12日(月・祝)
13:30 開場 / 14:00~17:00
宮代町・進修館
主催:SMF / あなたとどこでもアート実行委員会

アートのまつり プログラム (於小ホール、敬称略)

イントロダクション 青山恭之
あいさつ 三浦清史
A-1 手島 互 竹のアート実行委員会のこと
A-2 石上城行 インスタレーションとアーティスト・トーク
A-3 浅見俊哉 作品展示とアーティスト・トーク
A-4 殿村睦未・榎永彩子 エジプトのアーティストの作品展示等とトーク

B-1 社会芸術 ユニットウルス(吉田富久一、吉川信雄、大内公公、松村志野
詩作:長谷川千賀子)
「一枚の布から」 インスタレーション、朗読、パフォーマンス
B-2 田中清隆 作品展示とアーティスト・トーク 会社まるごとギャラリー、他
B-3 柴山拓郎 サウンド・インスタレーション
B-4 野本翔平 パフォーマンス
B-5 渡邊博紀 「おじさんの顔が空に浮かぶ日」プロジェクトに関わって

C-1 藤井香、藤井彩加 創作ダンスパフォーマンスとトーク
「足袋nce@能楽堂」の夢
C-2 三友周太 アーティスト・トーク
C-3 平田五郎 アーティスト・トーク
C-4 古川勝紀 アーティスト・トーク
C-5 キャベッジ・ネット 鄭直樹・西山佳奈子
SMFアート長屋 棟上げに向けてのプレゼン

*プログラムは変更となる場合があります。飛び入り出演をご希望の方は申し出ください。

懇親交流会 17:30~ (於研修室)
*会費2,000円。出演者およびSMF会員は参加無料。当日入会も大歓迎。

歓迎の舞 中村元
協力:竹のアート実行委員会、宮代町そば打ち隊のみなさん

SMF
Sound Music Foundation
http://www.artplatform.jp

アートのまつりプログラム

